

協議の場の結果の公表について

上峰町長 武廣 勇平

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

市町村名 (市町村コード)	上峰町 (41345)
地域名 (地域内農業集落名)	江迎地区 (江迎集落)
協議の結果を取りまとめた年月日	令和6年5月17日 (第1回)

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

米、麦、大豆を中心とした土地利用型農業を行い、碓・江迎営農組合及び第二機械利用組合により農業生産の効率化や担い手の育成に取り組み、現在は集落営農組合の設立がなされ、将来は法人化に向けて活動中である。
農業の後継者として期待される世帯の育成に取り組んでいるが、農業以外の自営業者も後継者のために事業拡大することも想定される。集団化した優良農地との共存による地域の活性化が不可欠なことであると考えられる。

(2) 地域における農業の将来の在り方

米、麦、大豆を主要作物としつつ、継続して拡大していく。一方で、後継者の確保については、今後も課題である。碓・江迎営農組合及び第二機械利用組合により農業生産の効率化や担い手の育成に取り組み、現在は集落営農組合の設立がなされ、将来は法人化に向けて活動する。

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	162 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	155 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	- ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

担い手への農地の集積・集約化を基本としつつ、新たな担い手の確保を模索する。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1)農用地の集積、集約化の方針
担い手を中心に集積・集約化を進め、団地面積の拡大を農地バンクを通じて進める。
(2)農地中間管理機構の活用方針
地域全体を農地バンクに貸し付け、担い手への経営意向を踏まえ、所有者の貸付意向時期に配慮しながら段階的に集約化する。
(3)基盤整備事業への取組方針
取組が可能と思われる区域については整備済みであり、これ以上の取組は考えていない。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組方針
現状では担い手により区内の農地を維持管理できているが、将来に向けては後継者を確保したい。地区外からの参入については、地元の農業者を第一優先とし、それでもいなかった場合に参入していただきたい。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針
碓・江迎営農組合及び第二機械利用組合で受託しており、今後も継続していく。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

<input checked="" type="checkbox"/> ①鳥獣被害防止対策	<input type="checkbox"/> ②有機・減農薬・減肥料	<input type="checkbox"/> ③スマート農業	<input type="checkbox"/> ④畑地化・輸出等	<input type="checkbox"/> ⑤果樹等
<input type="checkbox"/> ⑥燃料・資源作物等	<input type="checkbox"/> ⑦保全・管理等	<input type="checkbox"/> ⑧農業用施設	<input type="checkbox"/> ⑨耕畜連携等	<input type="checkbox"/> ⑩その他

【選択した上記の取組方針】

イタチ・アライグマ対策として箱罠を設置しているが、完全ではないので駆除を進めたい。